

寺子屋ガイド

※題字／森川芳聲

もくじ

- 2 巻頭言 小学校教育を見直す…山口 秀範
- 3 死支度と友情①……………廣木 寧
- 4 偉人レポート……………大坪 信喜
- 6 橋を架ける⑫……………占部 賢志
- 8 スラムダンクが繋いだ世界…………水崎 之子
- 9 鳥飼八幡宮―ゆかりの名士たち(第七回)
武内宿禰……………山内 圭司
- 10 TERAKOYAふおとればーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 碑のころ(16) 編集余録



橘湾を望む



水害碑

碑のころ

竹田先生船出の地

いけす料理肥前屋
長崎市網場町

※詳しく解説は12頁に掲載しております。

小学校教育を見直す

代表世話役

山口 秀範

防災訓練、集団登校など全員参加が求められ、クラスの係なども集団への献身が評価される。

正月休みに知人の勧めでドキュメンタリー映画「小学校―小さな社会」を観ました。女性監督の山崎エマ氏は、英国人の父と日本人の母を持ちニューヨークの大学を卒業して活躍中ですが、六年間通った大阪の公立小学校で日本人のアイデンティティが身についたと自覚しています。

そこで、最近では「ブラック」と呼ばれ否定的に語られがちな日本の初等教育に光を当てておくべく、一年間を通して世田谷区の公立小学校にカメラを据えて子供たちの日常を作品にしたのです。これが上映されるや、教育先進国のフィンランドで四ヶ月のロングランを記録し、複数国の映画祭で入賞したりと絶賛を受け日本でも注目され始めたようです。

映画とその反響

山崎さんは自らの体験とその後の国際的交流の中で気づいた、日本の小学校のユニークさを次の三点あげています。

- 1、生活習慣修得が入学と同時に施され、時として教科教育よりも重視される
- 2、掃除：毎日使う教室を自ら掃き清める、給食：当番の配膳を待つて一斉に食べ始めるなど。
- 3、学校行事は当日の成果以上に、準備・練習に力が注がれる

入・卒業式、運動会、楽器演奏会など細部にこだわり、入念に仕上げられていく。実施の感動も大きいですが、一方では同調圧力をもたらす恐れも。3、集団行動は個人の都合よりも上位にあり、規律・協調を身につける機会となる

一つが、多くの外国人には驚きの対象となります。掃除は用務員の仕事であり、スポーツデイは当日がいきなり本番というのが世界の常識だからです。

その半面で、自由と個性尊重の教育が行き過ぎたものではと反省し始めている欧米社会から見ると、日本の学校は改善のヒント満載とも映ります。果てはワールドカップ観戦の日本人応援団がゴミを片付けたたり、国際会議で行儀が良く協調性を発揮するのも、小学校教育の賜物かと話題になっているそうです。

日本人は喜んでいいののか

国際社会における日本人の言動を評価されるのは嬉しい事ですが、それらを手放して喜んでいいのでしょうか。

映画には六年生が新入生の世話をする様子や、音楽会の器楽でシンバルに抜擢されたが中々うまく演奏できず落ちこぼれそうになる二年生も登場します。どのシーンも七十年前に遡る私の小学生時代とほとんど変わらず、懐かしささえ覚えます。我々世代も六年間をかけて日本人らしく育て上げられたのでしょうか。

しかし戦後のベビーブーム時代とは価値観・環境・世界情勢などが一変した現代、そして将来に向けて、小学校教育がこのままで大丈夫な筈はありません。例えば映画の一場面――入学した一年生を何も出来ない幼児として六年生の庇護のもとに置く箇所などは、全国の公立小学校で当り前の光景のようですが、年長児として様々な体験を積んで入学して来た子を足踏みさせる、さらには退化させ兼ねない愚挙でしょう。

また打楽器をうまく合わせられない子にプレッシャーをかけて緊張を強いるより、演奏の楽しさの中から能力を引き出すことは出来ないものでしょうか。

集団の規律と役割を重視する余り、独りひとりの特長を見出して伸ばす教育が置き去りにされてきたように思われてなりません。個々の潜在力を自覚させ、得意分野で存分に力を発揮しつつ競い合うところから、世界で活躍する素地が養われるのです。そんな小学校が求められて久しいのです。

目ざすべき小学校教育

十六年がかりで志明館を開校させたのは、まさにその点――横並びで突出した人財が生まれ難い公立の限界――の打破を目ざしたかったからです。しかも、世のため他者のために役立つ人になろうという「志」を早くから心に灯し、各人の得意分野を磨き合う校風を築きたいと念願したからです。

昨年開校以来、小学校一・二年生は掃除も給食当番にも懸命に取り組んでいます。体育祭や防災訓練で集団の規律も学びます。「日本人らしさ」の修得に怠りはありません。

その上で生徒たちは、元気に伸び伸びと新しいチャレンジに立ち向かい始めています。「人間力」と「発憤」という志明館独特の教育が試行錯誤を経て次第に浸透しつつあるようです。先端ITも勿論学ばせませんが、まずは国語・数学の一環として書写・算盤に力を入れています。

明治以降の初等教育も、個より集団の秩序が優先されていたでしょう。しかし一方では「進取の気象」を育み、例えば孟子の「自ら顧みて縮くんば、千万人と雖も吾れ往かん」が子供たちの心に植え付けられ、それが我が国の独立を守り近代化を推進する幾多の人財を輩出したのです。日本の復活・再生を担うのは、今も小学校教育にあるのです。